

《薬局サーベイランスコメント》

『インフルエンザ流行の立ち上がりは最も早い状態が継続しており、12月中旬には本格的な流行となることが予想される』

2016年12月6日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2016/2017年シーズン）の2016年第48週（11月28日～12月4日）の全国のインフルエンザ推定患者数は、薬局サーベイランスによると101,128であり、第33週以降16週間連続して増加が続いていま（図1）す。また、休日明けの第49週（今週）の月曜日（12月5日）の推定患者数は28,123と今シーズンこれまでの1日の患者数の最高値を1万人近く上回っており、インフルエンザの患者数は今後も更に増加するものと思われます。

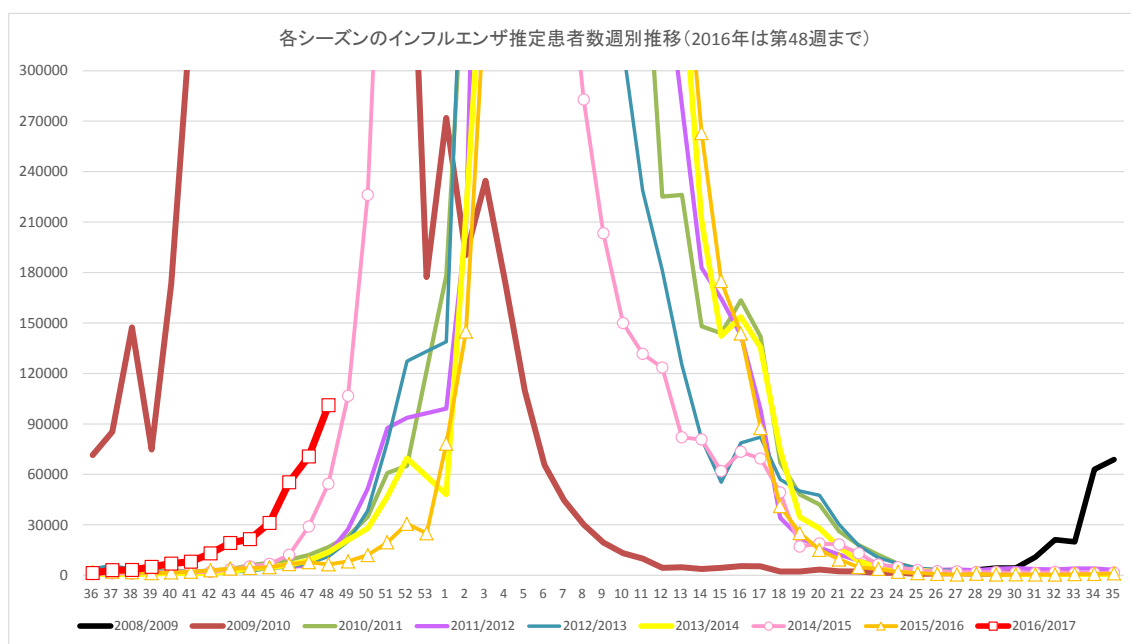


図1. 過去6シーズンと今シーズン（2016/2017シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移

各都道府県別の第48週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、富山県、福井県、北海道、栃木県、沖縄県、岩手県、秋田県、広島県、群馬県、東京都、山形県、山梨県、兵庫県の前順となっており、42都道府県で前週よりも増加が認められます。

2016年第36週から第48週までの累積の推定患者数は339,407であり、年齢群別で

は5～9歳（14.0%）、10～14歳（13.2%）、40～49歳（13.0%）、30～39歳（12.1%）、20～29歳（10.2%）、15～19歳（8.8%）、50～59歳（8.4%）、0～4歳（8.1%）の順となっています。5～14歳、20～40歳代の年齢群の増加が目立ちます（図2）。

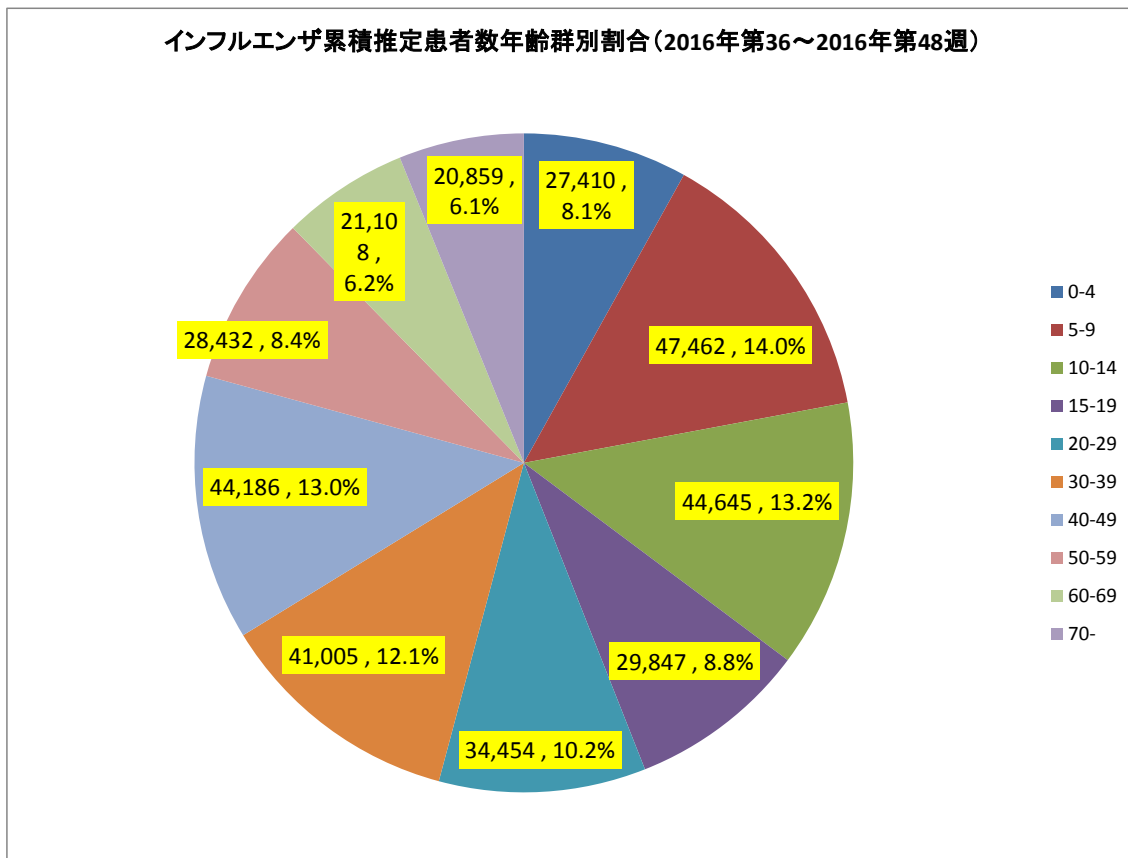


図2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2016年第36～2016年第48週、累積推定患者数= 339,407）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（344 検体解析）は、A/H3（A 香港）亜型が 85.8%と大半を占めており、次いで A/H1pdm 11.6%、B 型 2.6%の順となっています（図3）。

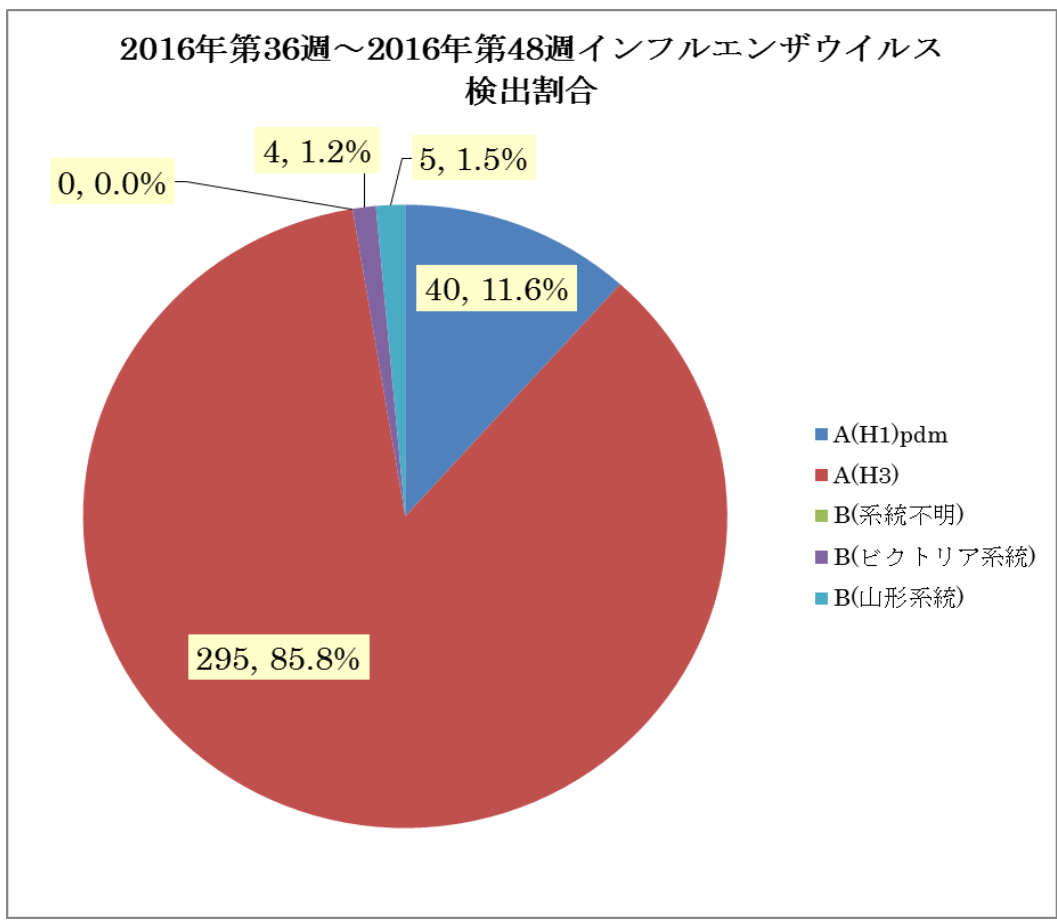


図3. 2016年第36～2016年第48週インフルエンザウイルス検出割合 (総検出数=344)

インフルエンザ流行の立ち上がりは季節性インフルエンザとしては2009年の薬局サーベイランス開始以降では最も早い状態が続いており、12月中旬には本格的な流行となることが予想されます。インフルエンザの患者発生の推移には注意が必要です。